

美川っ子

R3. 11. 22 文責 大達高弘

持続可能な開発ってなに？

「世界人口白書2021」によると、世界の総人口は78億7500万人だそうです。このままのペースで増え続けると、2050年には95億人を超えるという予測もあります。現在、世界は新型コロナウイルス感染症に苦しめられていますが、地球全体を見ると飢餓や貧困、環境破壊や気候変動、民族対立や地域紛争、人権侵害など、多くの問題にも直面しています。しかしそれらは、近年になって急に始まったわけではなく、以前からずっと言われ続けてきた問題であり、人口の増加とともに深刻さを増してきたものです。そのため、「これらの深刻な問題を早急に解決していくことが人類共通の課題」と、声高に叫ばれています。

こうした話をすると、遠い未来の話、あるいは日本ではなく、地球の裏側の話という風に思いがちですが、2050年の未来を、この地球で生きているのは、私たちの目の前にいる子どもたちです。つまり、今ある様々な問題は、決して他人事ではなくて、私の、いや私たちの問題であると考えなければいけないと思うのです。

地球的課題の解決に向けて、2015年に国連で採択されたのが、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」と呼ばれるものです。この文書には、2030年までの達成が公約された17のゴール（基本目標）と169のターゲット（具体目標）が明記されており、これらを合わせて「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals エスディージーズ)」と呼ばれています。そして「持続可能な開発とは、どの世代に生まれたとしても、有限な地球資源の中で、誰もが経済活動を持続的に維持し、生活の質を高めていくことであり、そのために必要な地球資源を保全し、世代内でも世代間でも共有していくことを意味しています。言い換えると、経済と環境の持続可能性を両立させた社会づくりを進めていくことであり、それを可能とする社会が「持続可能な社会」といえます。



昨年度から小学校で完全実施となった新しい学習指導要領にはSDGsが盛り込まれています。SDGsを学ぶことは、世界で起きていることや、これまで抱えてきて解決できていない課題について考える機会になります。そして教育はSDGs達成のための担い手を育てることになります。その際に意識することとして、

- 「学習者の行動変容」をもたらすこと
- SDGsのゴールは一つ一つが相互につながっているということ
- 自分事にするための工夫をすることが挙げられています。

世界の貧困や気候変動の事実を知っても、行動に移さなければ何も変わりません。日々の教室の中で何か問題を見つけても、アクションを起こさなければ解決にはつながりません。他人事ではなく、自分事として行動に結びつくように、一人一人が感じたことを共有したり、出てきた疑問や問いについて一緒に調べたりすることが、持続可能な開発に向けての第一歩だと考えます。

そんな中、6年生がアクションを起こしました。総合的な学習の時間での学びをきっかけに、自分達にできることはないかと考えました。大きなことはできなくても、とにかく自分達にできることから始めようと、地域のゴミ拾い、給食の牛乳パックのリサイクル、ベルマーク回収、ハウセンカの種の配付を思いつき、活動をスタートしました。これまで他人事だったSDGsを自分事として捉えたのです。やがて、6年生は、自分達の思いを全校に伝え、学校全体へと広げていきました。



【6年生が全校に協力を呼びかけたチラシ】

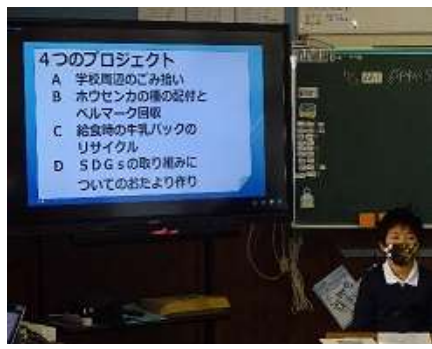
11月8日(月)の給食時間の放送で、全校に向けて、ベルマーク運動への協力依頼がありました。6年生発のSDGsの取組が全校に広がった瞬間でした。

11月13日にあった授業公開日では、これまでの学習成果として、自分達のSDGsの取組を保護者の皆様に発表しました。地球上に暮らす一人の人間として何ができるかを考え、自分にできる取組を始め、たとえ少しずつでもSDGsのゴールに向かって歩き始めた6年生。私は校長として誇りに思います。

わたしは、目標12の「つくる責任、つかう責任」を達成するために、物なるべく長く使うようにしたいです。特に服を大切にしたいです。理由は、まだ使えるのに捨ててしまうと、資源が尽きてしまうからです。

ぼくが目指す目標は、7の「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」です。具体的には、ぼくは家でおふろの電気を消し忘れることがあるので、使わない電気をこまめに消すようにしたいです。

わたしは目標16の「平和と公平をすべての人に」で、学校の中で何か困っている人がいたら話を聞くようにしたいと思いました。話を聞けば、気持ちが少しでも楽になって、いろんな人が過ごしやすいからです。



測量体験・租税教室（6年生）

10月22日（金）、三浦商事有限会社様のご協力をいただき、測量体験をしました。算数科で学習した「拡大・縮小」の発展学習の場、またキャリア教育の一環としての体験会でした。ミリ単位まで正確に測定できる機械を使って野球のサードベースの位置を探したり、ドローンを使って上空から学校周辺の全景を撮影したりしました。工事現場で実際に使用されている機械の精密さだけでなく、その機械を操作する人の技術の高さにも驚いていました。

私は、長さや高さを測る機械を見たことはありませんでした。初めて見て、すごい機械だなあと思いました。ドローンも見せてもらって、すごく高い位置まで飛んだあと、元あった場所に戻ってくることができると知り驚きました。



10月29日（金）には、浜田市役所税務課の職員の方にお世話になり、租税教室を開催していただきました。社会科の公民分野の学習の一環で、身近にある施設等をもとに税金が使われているかどうかを考えたり、もし税金がなかったらどうなるのかをDVDで確かめたりしました。自分達が学校で学ぶことに対しても多くの税金が使われていることを知り、税の意味、大切さを実感することができました。



○最初、税ってなんのためにあるのかわからなかったけど、税はみんなをサポートしているので、すごいなと思いました。
○ぼく達は税金に助けられていることがわかってよかったです。

3年～6年 体操演技発表会

例年10月末に開催されている小学校体操競技大会が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に引き続き中止となりました。ですが、3年以上の体育の学習では、2学期に器械運動（マット・跳び箱・鉄棒）がある関係で、どの学年も体育の時間に練習し、技能を高めてきました。そこで、せっかくの学びの成果をお互いに確かめ合う、認め合う場として、3・4年生、5・6年生にわけて、合同体育の時間に演技発表会を行いました。

当日は大会さながらの緊張感漂う体育館で、一人一人がこれまで練習してきた技を、精一杯披露しました。誰一人手を抜かず、真剣に、決してあきらめることなく演技しました。また、見ている者も、仲間の演技を温かい眼差しで見守り、頑張りを称える大きな拍手を送りました。2時間ともその場に立ち会った私は美川っ子のそうした一つ一つの姿に感動すら覚えました。素晴らしい発表会でした。



11月授業公開日（学習の成果発表会）

11月13日（土）は授業公開日でした。昨年度から、これまで長く続いてきた学芸会的（劇、合奏・合唱、踊りなどを発表する）な発表会ではなく、普段の学習の成果を発表する形に変更しました。従来と形を変えたことで、より子どもたちの普段の学習の様子や成果を見ていただくことができるようになったと思います。子どもたちは、この成果発表会に向けて一生懸命に準備し、一人一人が自分の学びの成果を精一杯伝えようと頑張りました。その思いや気持ち、そして学習で身につけた力を子どもたちの姿や発表から感じていただけたなら幸いです。ご多用の中、ご来校いただき、本当にありがとうございました。



【ダンスに挑戦する1年生】



【自分達で発表の準備をする2年生】



【友達に感想を伝える3年生】



【10歳の自分を紹介する4年生】



【制作物を紹介する5年生】



【SDG'sの取組報告をする6年生】

12月の主な行事

- 2日（木）全校朝礼、外国語（支援員）
- 7日（火）県学力調査（5・6年生）
- 8日（水）みかわ人権集会
- 9日（木）外国語（ALT）、個人懇談、PTA運営委員会
- 10日（金）個人懇談
- 15日（水）全校テスト（国）
- 16日（木）外国語（支援員）
- 17日（金）しめ縄作り交流会（5・6年）、委員会⑥
- 21日（火）ラブック号
- 22日（水）校外班会
- 23日（木）大掃除
- 24日（金）2学期終業式、給食終了、13：30下校
- 29日（水）～1月3日（月）学校閉庁
- 1月11日（火）3学期始業式、給食開始、13：30下校

